



Noritake China / Ivory China / Fine China / Bone China / Folkstone / Primastone

ノリタケ食器 (ディナーウェア)

Progression China / Primadura / Craftone / Versatone / New Decade / New Fine Casual China

デザインの变迁

Sheer Ivory Bone China / Diamond Collection / Fine China / Estate Porcelain / etc...

—— 昭和30年代から現在まで ——

■期間 2009年3月31日(火)〜2010年3月28日(日)

■場所 ノリタケの森クラフトセンター3階 ノリタケミュージアム【開館時間10時〜17時】 ■休館日 月曜日【月曜日が祝日の場合は翌日】、年末年始

■クラフトセンター入館料 大人及び学生 500円(団体割り引き有り) 高校生 300円(団体割り引き有り) 中学生以下・障害の有る方 無料

ノリタケの歴史は、幕末の動乱の中で森村市左衛門という一人の青年が「海外貿易」を志したときから始まりました。市左衛門は、1876(明治9)年に森村組を創業、米国へ弟の豊(とよ)を送り出し、ニューヨークに「モリムラブラザーズ」を設立して骨董品や雑貨の輸出を始めました。その後、瀬戸で作らせた生地に専属の画付工場で画柄を付けた焼き物の輸出へと特化していきましたが、初期の頃はファンシーウェアと呼ばれる花瓶や飾り皿などが中心でした。やがて、欧米の家庭で使われる洋食器(ディナーウェア)に着目、輸出事業の将来を見据えて、日本でこれを製造して輸出することを決意します。そして、1904(明治37)年、愛知郡鷹場村大字則武(現在の名古屋市西区則武新町)に日本陶器合名会社を創立、ヨーロッパから導入した近代的な設備を備えた陶磁器製造工場を建設して、ディナーウェアの製造を開始しました。しかし、ディナーセットに不可欠な25cmディナー皿の製造は困難を極めました。10年にわたる試行錯誤の末、1913(大正3)年、「白色硬質磁器」によるディナー皿が完成し、翌1914年、日本初のディナーセット20組が米国へ出荷されました。この後、白色硬質磁器ディナーセットの輸出は飛躍的に増え、地名に由来する「ノリタケチャイナ」の名をもって、世界中へ広がっていききました。

輸出の拡大とともに、ディナーセット用に多くの画柄が制作され、ノリタケスタイルの画柄も確立されました。その後ノリタケは、「ボーンチャイナ」の開発にも取り組み、1932(昭和7)年、日本で初めて製造に成功しました。太平洋戦争中はボーンチャイナ製造を除き食器製造は中断しましたが、戦後、いち早く製造を再開しました。1960年代の初めには、温かみのある「酸化炭成磁器」(アイボリーチャイナ)や画付けの新技術、日常使いに適した「ストーン(炆器)」素材の開発が進みました。また、電子レンジや食器洗浄器の普及など、生活スタイルの変化に対応した耐熱強化磁器素材の開発などを次々と進め、一般家庭用から業務用に至るまでたくさんの洋食器を世に送り出してきました。

今回の企画展示では、東京オリンピックの開催、高速道路や東海道新幹線の開通などを背景として日本経済が目覚しく発展する中で、われわれ日本人の生活が欧米化し、2LDKやダイニングキッチン、洋食メニューの普及や頒布会形式の食器販売を通じて、洋食器が一般家庭で身近になった昭和30年代後半(1961年以降)から、創立100周年を迎えた現在にいたるまで、ノリタケ洋食器の画柄デザインの移り変わりをご覧ください。

ノリタケミュージアム



ノリタケの森クラフトセンター内
ノリタケミュージアム

〒451-8501名古屋市西区則武新町三丁目1番36号
TEL 052-561-7114 (代) FAX 052-561-7276